

**第3回 とよた歴史検定 解答・解説**

**初 級**

問	正 解	テキストページ	解 説
1	ア	108	旧石器時代は、無土器時代ともいわれ、土器がまだ発明されていない時代。豊田市内での鉄製品使用は弥生時代の終わり頃からである。また、旧石器時代の遺跡から木製品は見つかっていない。郷土資料館では、大明神B遺跡（渡刈町）出土のナイフ形石器、梅坪遺跡（東梅坪町）の細石刃などを常設展で展示している（特別展期間中を除く）。
2	イ	110	酒呑ジュリナ遺跡（市指定史跡、幸海町）は、縄文時代草創期の遺跡で、愛知県内の土器では最古級の <small>びりゅうきせんもん</small> 微隆起線文土器が出土した。
3	エ	114	豊田スタジアムの近くにある曾根遺跡（市指定史跡、森町3丁目）は、縄文時代中期と晩期の集落遺跡で、遺跡の一部が整備され、見学可能な公園になっている。また、公園内には、移築された香久礼1号墳や、現存する古墳としては市内最大級の八柱社古墳も見ることができる。
4	イ	115	土偶のほとんどは女性像で、再生や豊穡を祈願したものと考えられる。埴輪と混同されやすいが、埴輪は古墳時代に古墳の墳丘に立てて並べるために製作された土製品である。石棒は、男性器を模したもので祭祀に使われた道具と考えられている。
5	ア	116	写真は今朝平遺跡の配石遺構で、円形に石を配し、土偶や石棒などが発見されたことから、祭祀が行われていた場所ではないかと思われる。ストーンヘンジはイギリスの配石遺構である。
6	ウ	113	温泉施設の名称は「どんぐりの湯」である。この施設を含む一帯に位置する中村遺跡（桑原町）から、縄文時代後期のドングリの貯蔵穴が発見された。
7	ウ	119, 120	川原遺跡（鴛鴨町）から出土した弥生土器である。この形態の土器は、弥生時代後期の尾張地方を中心とした地域で作られ、パレススタイル土器と呼ばれている。土器の表面が赤色顔料で塗られ、楕円状の工具でつけた文様や刺突文がつけられていることが特徴である。

問	正 解	テキストページ	解 説
8	ウ	125	手呂町で宅地造成中に発見された銅鐸である。高さは約98cm、重さは約20kgあり、愛知県指定文化財になっている。
9	ア	120	鉄鏃とは鉄製の矢じりのことである。弥生時代の鉄製品の出土は東海地方では非常にめずらしい。南山畑遺跡（広川町）では、鉄鏃3点のほか鉄滓や鍛造された鉄片が出土している。
10	イ	129	模様の特徴から「 <small>ないごうかもんきょう</small> 内行花文鏡」と呼ばれる鏡である。日本では主に弥生時代から古墳時代の遺跡から出土している。三角縁神獣鏡も古墳から出土するが、模様に複数の獣や神の像が描かれている。
11	ア	128～131	池田1号墳では花崗岩の巨石を使用して横穴式石室が造られた。馬場瀬8号墳は平戸橋町、八柱社古墳は森町にある。大仙古墳は大阪府堺市に築かれた全長約486mの日本最大の古墳である。
12	エ	131	豊田大塚古墳（河合町）の発掘調査では、装飾須恵器をはじめ、馬具や装飾品などが出土した。出土品は国の重要文化財に指定され、郷土資料館の常設展示で公開している。
13	イ	豊田市郷土資料館 常設展	大型の勾玉に小型の勾玉がついているため子持勾玉という。須恵器は古墳時代の土器の種類で、形象埴輪は古墳時代の古墳に立て並べるために作られた埴輪の種類のこと。
14	ウ	129, 130	馬場瀬古墳群（平戸橋町）では、現在7基の古墳を見学することができる。なお、1号墳は宅地造成工事のため、昭和45年（1970）の発掘調査後に滅失した。また、8号墳は横穴式石室を見ることができる。
15	ア	140	奈良時代の三河（参河）国には、賀茂郡・碧海郡・額田郡・幡豆郡・宝飫郡・渥美郡・八名郡の7郡が置かれ、現在の豊田市内は、主に賀茂郡・碧海郡の2郡にまたがっていた。

問	正 解	テキストページ	解 説
16	ウ	137, 138	「延喜式神名帳」は延長5年(927)にまとめられた『延喜式』の巻九・十のことで、当時「官社」に指定された全国の神社の一覧である。国・郡別に神社が羅列されている。
17	ウ	140, 141	古代以来、書写の材料に木片を用いたものを木簡と呼んでいる。日本古代の木簡は文書木簡、荷札などがある。荷札には調・庸などの都に納める税につける貢進物付札と物品の保管管理整理用の付札などがある。貢進物付札には地方の地名と物品名などが記されている。
18	イ	152, 153	灰釉陶器は植物灰を用いた施釉陶器で、平安時代の猿投窯・尾北窯を中心に生産された。山茶碗は中世に生産された日常雑器の碗類で、古窯跡のある丘陵地から碗片が大量に出土することからこの名がある。古瀬戸は鎌倉時代から室町時代中期まで生産された施釉陶器の総称。
19	エ	179	「城跡公園足助城」(足助町須沢39-2、入場有料)では、復元された本丸や櫓などを見学することができる。
20	イ	161	足助次郎重範は、元弘の変の翌年に捕えられて、京都の六条河原で処刑された。その後、足助氏は南朝方の衰退とともに没落し、代わって鈴木氏が足助の領主となった。
21	ア	159, 160	中条氏は尾張国の守護職などを務め、猿投神社に鎧や刀を寄進した。
22	ウ	181	重要文化財「紙本著色織田信長像」は、織田信長の一周忌にあたる天正11年(1583)に、法要のために長興寺に納められた掛軸である。
23	ア	180	写真の長篠合戦図屏風は長久手合戦図屏風と一対の屏風で、豊田市指定文化財となっている。寺部渡辺家ゆかりの屏風で、渡辺半蔵守綱が強調して描かれている。

問	正 解	テキストページ	解 説
24	エ	162	中条氏が猿投神社に寄進したものは「 <small>かしどりとおどしよるい</small> 櫛烏糸威鏡 <small>おおそでつき</small> 大袖付」のほか「 <small>たち めいゆきやす</small> 太刀 銘行安」があり、この2点は重要文化財になっている。
25	イ	172	松平氏の初代は、諸国を流浪して松平郷を訪れた松平親氏であるといわれている。その後、松平氏は安城や岡崎に進出していった。
26	七州城	214～216	七州城跡は市指定史跡となっており、隅櫓の石垣が残る。現在の隅櫓は昭和53年（1978）に復元されたものである。高台にあり周辺の七つの国が見渡せたということで、七州城と呼ばれた。
27	イ	190, 191 378	渡辺守綱は、徳川家康の家臣として活躍し、徳川十六将に数えられた。のちに、家康の命で、尾張徳川家の家臣に付けられた。
28	ア	191	又日庵は、大給松平家から渡辺家の養子となった人物で、実の弟は裏千家の養子となり、十一代宗室・玄々斎となった。
29	イ	402, 403	足助祭りは江戸時代から続く祭で、西町・新町・本町・田町の四町がそれぞれ山車を出し、在方は棒の手などの警固を出した。かつては6日間かけて行う盛大な祭であった。
30	ウ	225	風外は天保4年（1833）から7年間住職として足助の香積寺に在住し、三河一帯や名古屋を布教して歩くとともに、「嵐に吠える虎」を代表とする書画をよくし、「香積風外」や「たご風外」などと呼ばれていた。人望が厚く、加茂一揆で農民の怒りを鎮めたことでも知られている。
31	ウ	218, 219	崇化館は拳母藩の藩校であり、藩校は武士の子弟が学んだところである。商人や農民の子どもは寺子屋で読み・書き・そろばんを学んだ。

問	正 解	テキストページ	解 説
32	イ	199, 200	鳥山牛助精元は、三河代官として幕領となった挙母・伊保などを治めた。本多忠利は、挙母藩本多氏の祖。村上忠順は文化9年（1812）に高岡に生まれ、刈谷藩主の侍医を務め、国学者や歌人としても活躍した人物。
33	ア	275	市内では陶磁器の材料になる石粉が多く採掘されていた。
34	イ	373, 409	もとは集落内で新仏（その年に亡くなった人）の家を回り、念仏を唱えて供養し、手踊り（盆踊り）を踊ったものだが、現在では平勝寺の境内で行われている。盆踊りは楽器を使わず、音頭とりの唄にあわせ下駄の足拍子だけで踊る。
35	ウ	228, 229	飯野八兵衛事件は宝暦2年（1752）に起きた事件で、飯野村（藤岡飯野町）の八兵衛を中心とする集団が年貢減免を求めて江戸藩邸の藩主に直訴した。三河一揆は、永禄6年（1563）に徳川家康領内で浄土真宗信徒が起こした一揆。
36	ア	236	内藤政苗は、挙母藩内藤家の初代藩主。田中吉政は、豊臣秀吉によって徳川家康が関東入国した後、岡崎五万石と額田郡・賀茂郡（矢作川以東中心）を治めた人物。板倉塞馬は、幕末の足助の俳人。
37	イ	252	枝下用水の開削は愛知県と民間の共同事業として始まるが、洪水や濃尾地震などにより工事は難航し、のちに民間事業となった。最高責任者となった西澤真蔵は財産を使い果たし、明治30年（1897）に死去した。愛知用水は昭和36年（1961）に完成した尾張丘陵部から知多半島にかけての用水。大井平用水は、江戸時代に作られた稲武地区の用水。金山揚水は、逢妻男川の水を水田にくみ上げたもので、明治45年から昭和40年代まで利用された。
38	イ	277	百々貯木場は矢作川上流から流された木材を保管するため、大正7年（1918）に建設された。

問	正 解	テキストページ	解 説
39	ウ	296, 297	昭和4年(1929)に始まった世界恐慌のあおりを受け、中心産業の蚕糸業が衰退して、「破れころも(拳母)」と呼ばれるほどにさびれていた拳母町に自動車工場を誘致した当時の町長が中村寿一である。
40	ア	274, 275	手元の温水をはった釜に繭を入れ、糸を引き出しているところ。日露戦争後、愛知県の生糸生産は全国4位、収繭量は2位であった。
41	ウ	305	飛行場の兵舎跡地(愛知少年院の南側)には草薙隊の慰霊碑が建てられている。
42	イ	295~297	豊田佐吉は喜一郎の父親で、豊田紡織会社の設立者。豊田利三郎は、昭和12年(1937)トヨタ自動車工業株式会社創立時の取締役社長。豊田英二は、5代社長、初代会長などを歴任した人物。
43	イ	383	藤岡、猿投、松平など、それぞれの地区で棒の手が行われ、県や市の指定を受け、保存されている。
44	イ	396	蚕業取締所では、蚕の病気を予防するための蚕卵検査や、蚕の品種改良に関する研究などが行われていた。蚕業取締所としての役割を終えた後、この建物は、拳母市立図書館、准看護学校、豊田市青少年相談所と姿を変え、平成17年(2005)に近代の産業とくらし発見館となった。
45	ウ	256	ガラ紡機は明治初期に信濃国の臥雲辰致 <small>がうんたっち</small> が発明したもので、紡績の時にがらがらという音がすることからガラ紡といわれた。
46	ア	326~328	猿投ダンプ事故は全国に報道されて大きな衝撃を与え、それ以後に製造されたダンプのブレーキなどの構造を変えた。
47	イ	392	小田木自治区には、人形浄瑠璃を上演するための人形の首45個と衣装30点が伝わっている。日本で2番目に古い宝暦2年(1752)の紀年銘をもつものもある。

問	正 解	テキストページ	解 説
48	イ	400~402	<p>拳母祭りは拳母神社の例祭で、各町の山車八台が曳かれる。江戸時代、山車は拳母城（七州城）の大手門を通り、藩主内藤家は城内において山車上で演じられる狂言を見た。</p>
49	エ	354~360	<p>上郷町は昭和39年（1964）、高岡町は昭和40年、猿投町は昭和42年に豊田市と合併した。</p>
50	イ		<p>豊田市郷土資料館では、平成29年度に開館50周年記念特別展を開催する予定である。</p>